

名前：

私は、「これから、新聞や雑誌は必要だ」という後者の立場である。インターネットの普及により、あらゆる情報の入手が容易になり、新聞、雑誌の意義が以前より薄れた事は否めない。私自身も、情報入手の大部分をインターネットに依存しており、新聞・雑誌を利用する機会は随段に減った。しかしながら、インターネットが新聞、雑誌などをはじめとちる紙媒体の存在を脅かすことはない。その根拠として、インターネットは紙媒体とは全く性質の異なる情報媒体である事が挙げられる。かつて、初めてラジオやテレビのような情報媒体が流通した際にも、今日と同様の事態が起こった。即ち、紙媒体への依存度の低下である。ただし、いずれの場合においても、紙媒体が不要とされることはなかった。ラジオやテレビは、気軽に携帯できなからである。まさにこの携帯性が、紙媒体の最大の特徴であると言える。今日の社会では、人々の生活様式も著しく

多様化している。かつて生じなかつた紙媒体不要論が今日になつて生じたのも、まさにこの多様化の結果、情報媒体を携帯する必要がない層が生まれたことが原因である。しかし、社会全体を考えると、紙媒体の携帯性は未だ必要とされている。それゆえに、紙媒体は今後も存続すると考えられるのである。同じ理由で、娯楽目的を除いた、情報媒体としてのテレビやラジオも、不要とされる事はない。テレビには、他の作業を行いながら情報を入手できるという性質が、ラジオには安価という性質があるからである。そもそも歴史をたどりみても、消滅した情報媒体は、竹簡や木簡、パピルスくらいしか挙げられない。紙媒体が不要とされることはこれから起こるとするならば、それはインターネットによつてではなく、紙媒体と同じ性質をもちながらも、紙より優れた何かによつてである。